

みなかみ シェアサイクル

令和4年度 実証実験 最終報告

みなかみ町 総合戦略課
地方創生室 企画係

令和4年12月



1 実証実験概要

1-1 実証実験の目的

- (1) 水上温泉街及び周辺観光施設において、観光客や地域住民の交通手段を確保し、回遊性と満足度を高める。
- (2) 実証実験として利用状況等を把握し、シェアサイクル導入の可能性を調査する。

1-2 実施体制

- (1) 実施主体：みなかみ町
- (2) 運営会社：ecobike株式会社



1-3 概要

- (1) 実施エリア：水上温泉街及び周辺観光施設
- (2) ポート：
 - ・ JR水上駅
 - ・ 源泉湯の宿 松乃井
 - ・ みなかみホテルジュラク
 - ・ ふれあい交流館
 - ・ 道の駅 みなかみ水紀行館
 - ・ 湯テルメ・谷川
 - ・ JR上牧駅
 - ・ JR上毛高原駅
- (3) 自転車(電動アシスト付き自転車)：32台
- (4) ラック数：64台分
- (5) 利用方法：
 - 専用アプリを利用し、貸出・返却及び決済を行う。
- (6) 調査期間：令和4年4月1日(金)～11月30日(水)
- (7) 料金：15分につき25円、12時間以内上限 800円

1 実証実験概要(MAP)

上牧・月夜野エリア



湯原・谷川エリア



ecobike ポート設置場所

- ① JR水上駅** 駅ビルエリア
群馬県利根郡みなかみ町湯原

サイクルラック数 10台 | 営業時間 24時間


- ② 源泉湯の宿松乃井** 温泉エリア
群馬県利根郡みなかみ町湯原537
※ホテル宿泊者以外もご利用いただけます

サイクルラック数 5台 | 営業時間 24時間


- ③ みなかみホテルジュラク** 温泉エリア
群馬県利根郡みなかみ町湯原665
※ホテル宿泊者以外もご利用いただけます

サイクルラック数 5台 | 営業時間 24時間


- ④ ふれあい交流館** 温泉エリア
群馬県利根郡みなかみ町湯原801

サイクルラック数 5台 | 営業時間 24時間


- ⑤ 道の駅みなかみ水紀行館** 温泉エリア
群馬県利根郡みなかみ町湯原1681-1

サイクルラック数 5台 | 営業時間 24時間


- ⑥ 湯テラメ・谷川** 温泉エリア
群馬県利根郡みなかみ町谷川514-12

サイクルラック数 5台 | 営業時間 24時間


- ⑦ JR上牧駅** 上牧エリア
群馬県利根郡みなかみ町上牧

サイクルラック数 5台 | 営業時間 24時間


- ⑧ JR上毛高原駅** 上毛高原エリア
群馬県利根郡みなかみ町月夜野

サイクルラック数 10台 | 営業時間 24時間

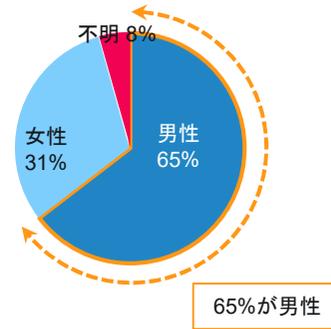


2 利用状況

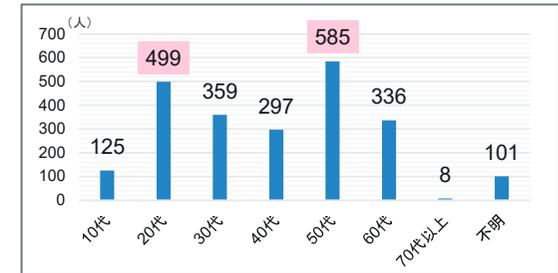
2-1 利用状況（全体像）

実証実験期間（令和4年4月1日～11月30日の243日間）の利用回数は合計2,310回であった。利用者を男女別で見ると、男性が65%を占めている。また、年齢別の利用回数では50代の利用者が1番多く、次いで20代の利用者が499回であった。20～50代の利用者が総利用回数の75%を占めている。日別利用回数では15回以上の利用があった日数は44日間で、うち休日が31日間であった。また、平均利用時間は58分53秒であり、他自治体（31分4秒）と比べて利用時間が長い傾向にある。

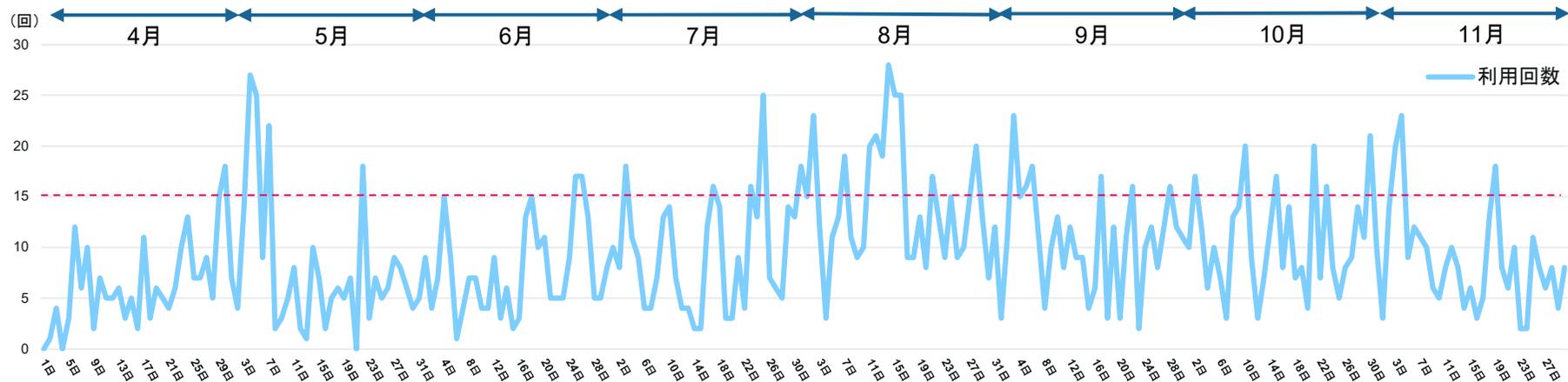
利用者の性別



年齢別利用者数



日別合計 利用回数



2 利用状況

2-2 平日・休日別利用状況

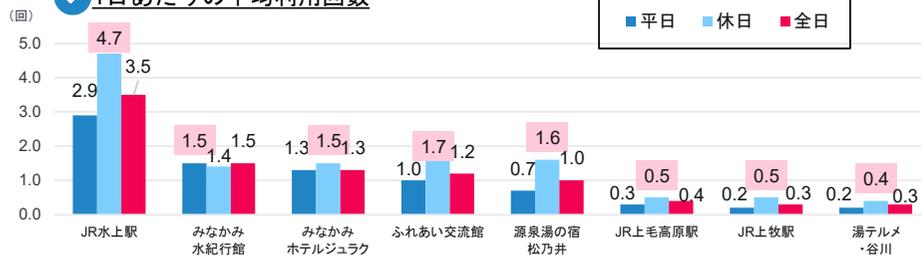
利用実績を日別にみると、平日に比べて休日の平均利用回数が多い結果となった。

さらにサイクルポート別では、「JR水上駅」の休日の平均利用回数は平日の約1.6倍、「源泉湯の宿 松乃井」は約2.3倍であった。併せて、「みなかみ水紀行館」を除いた全ポートで休日の平均利用回数が平日を上回っていることから、観光を目的に利用が伸びていると推測される。

平日・休日別 1日あたりの利用回数

	日数 (日)	総利用回数 (回)	日平均利用回数 (回/日)	回転数 (回/台・日)
平日	162	1,301	8.0	0.25
休日	81	1,009	12.5	0.39
全日	243	2,310	9.5	0.30

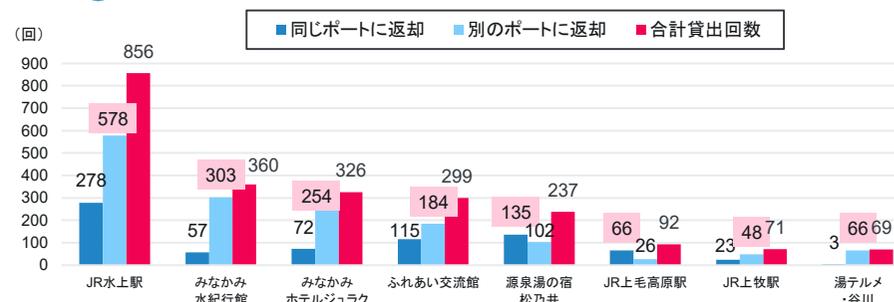
1日あたりの平均利用回数



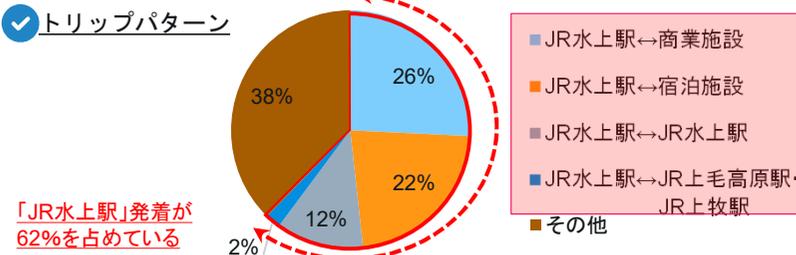
2-3 エリア別利用回数

ポート別で貸出と返却の回数を見ると、6つのポートで貸出場所と別のポートに返却されている回数が多い。また、全トリップ数のうち62%が「JR水上駅」を起着点とした利用であり、公共交通機関の補完機能を果たしていると考えられる。

ポート別 貸出返却回数



トリップパターン



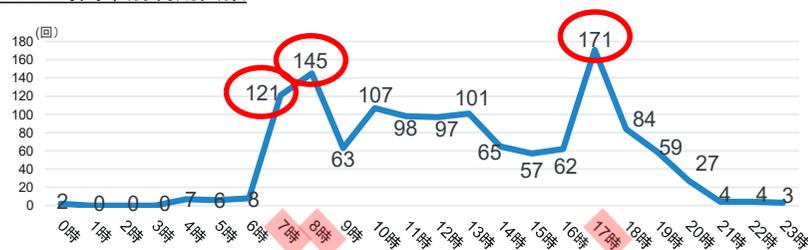
2 利用状況

2-4 時間帯別利用状況

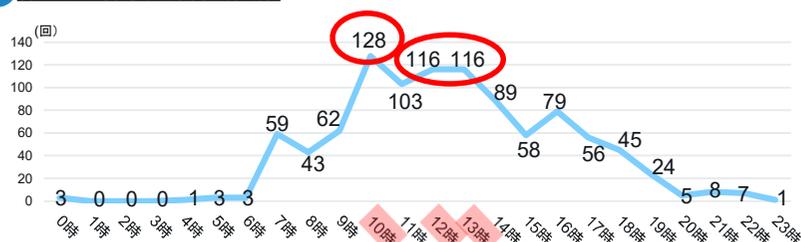
貸出回数を時間帯別に見ると、平日では「17時」が最も多く、次いで「7時」と「8時」の朝の時間帯が多く、通勤や帰宅時間における利用が多いと推測される。

一方、休日では「10時」が最も多く、次いで「12時」と「13時」の日中の時間帯が多く、観光や周遊目的の利用が多いと推測される。

平日の時間帯別利用回数



休日の時間帯別利用回数



2-5 利用時間の推移

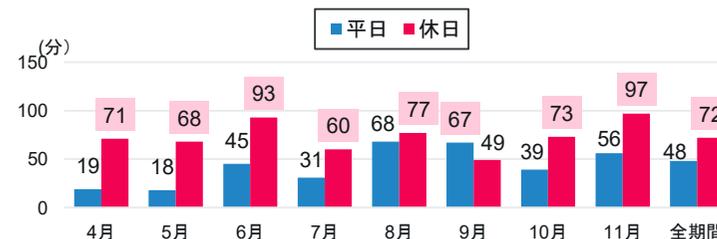
平均利用時間は58分53秒であった。平日の利用の68%が30分以内であり、通勤や日常の移動手段としての利用が多いためだと推測される。

平日と休日の利用状況を比べると、休日が平日の利用時間を上回っている。平日と休日の利用者では、利用者の属性や目的が異なることが考えられる。

利用時間の構成比

	利用時間			構成比		
	平日	休日	計	平日	休日	計
30分以内	1,004	411	1,415	68%	49%	61%
30分以上	468	427	895	32%	51%	39%
計	1,472	838	2,310	100%	100%	100%

月別平均利用時間の推移



3 アンケート

3-1 調査概要



調査目的

みなかみシェアサイクルについてアンケートを行い、本格導入に向けての有効性と課題の検証を目的とする。



調査時期

令和4年4月1日(金)
～11月30日(水)の243日間



調査対象

調査期間内にみなかみ町を利用地域に登録した会員を中心に、利用の有無に関わらずアンケートを行った。



調査項目

- ①属性（年齢、性別、住まいの地域）
- ②シェアサイクルの利用状況（利用目的、利用頻度、利用の前後の変化 など）
- ③シェアサイクルに対する意見（満足度、今後の要望 など）



回答状況

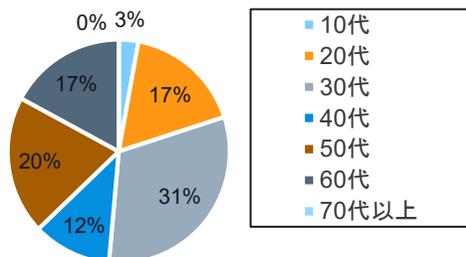
- ①配信者 : 758名
- ②回答者数 : 35名
- ③回答率 : 4.6%

3 アンケート

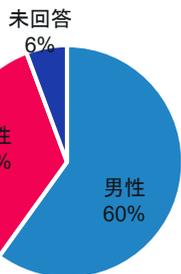
3-2 回答者の属性

回答者の年齢は、「30代」が31%と最も多く、次いで「50代」が20%である。
 性別は、「男性」が60%、女性が34%、未回答が6%である。
 住まいの地区は、「群馬県外」が63%と最も多く、次いで「旧水上地区」と「群馬県内（みなかみ町を除く）」が17%であった。

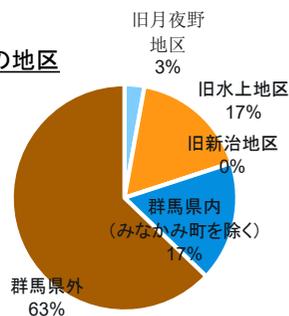
年齢



性別



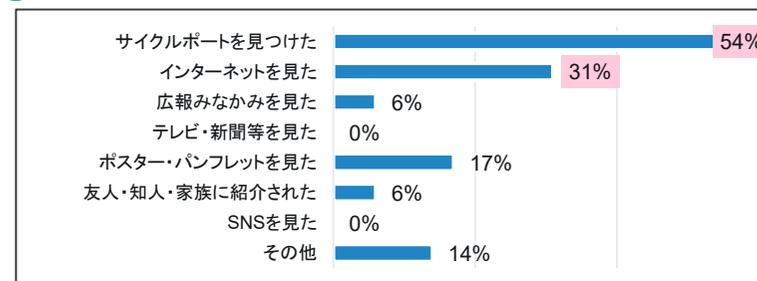
住まいの地区



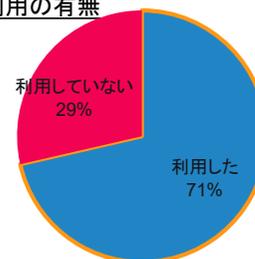
3-3 利用状況

シェアサイクルを知ったきっかけは、「サイクルポートを見つけた」が54%と最も多く、次いで「インターネットを見た」が31%であった。
 利用の有無に関わらずアンケートを行ったが、利用した人が71%で、利用していないという人が29%であった。

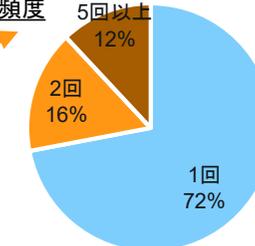
シェアサイクルを知ったきっかけ（複数回答可）



利用の有無



利用頻度

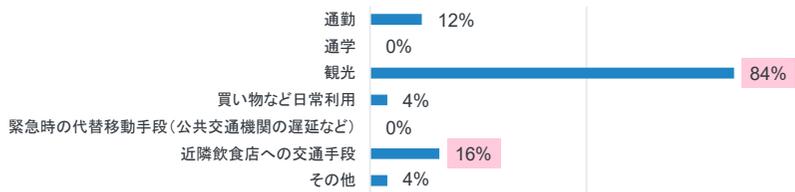


3 アンケート

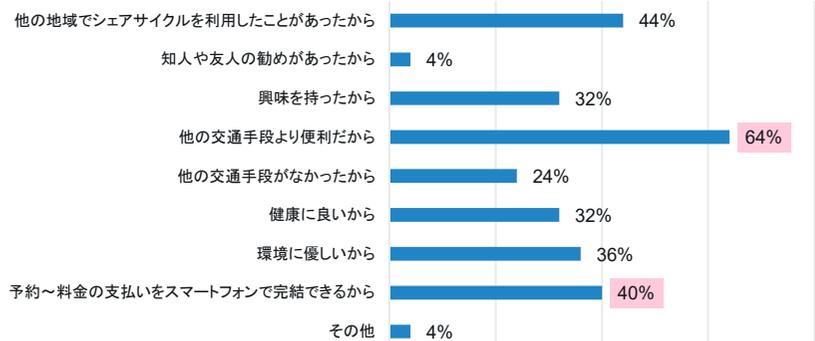
3-3 利用状況

利用目的では、「観光」が84%と最も多く、次いで「近隣飲食店への交通手段」が16%であった。
利用した理由については、「他の交通手段より便利だから」が64%で最も多く、次いで「予約～料金の支払いをスマートフォンで完結できるから」が40%であった。

✓ 利用目的（複数回答可）



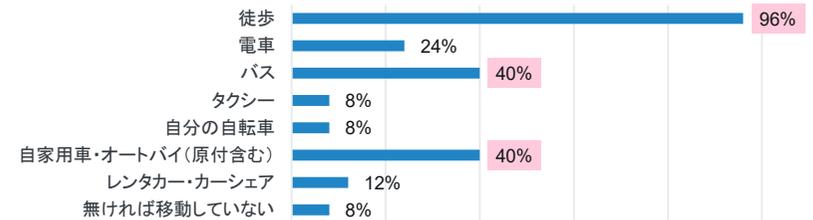
✓ 利用した理由（複数回答可）



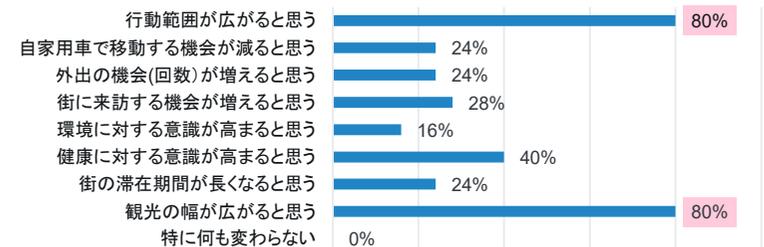
シェアサイクルが無い場合の交通手段では、「徒歩」が96%と最も多く、徒歩圏内の移動手段として利用されることが多いとわかる。

また、シェアサイクルによって期待される行動として、80%の人が「行動範囲が広がると思う」「観光の幅が広がると思う」と回答した。

✓ シェアサイクルが無い場合はどのような交通手段を利用するか（複数回答可）



✓ シェアサイクルによって期待される自身の行動の変化（複数回答可）

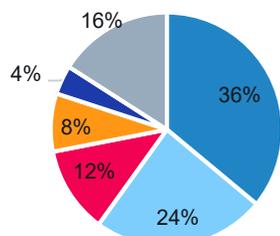


3 アンケート

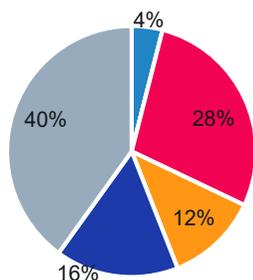
3-3 利用状況

シェアサイクルで移動したい距離（最短）では、「5分程度」が36%で最も多く、次いで「10分程度」が24%であった。
 シェアサイクルで移動したい距離（最長）では、「1時間以上」が40%で最も多く、次いで「15分程度」が28%が多かった。

✓ シェアサイクルで移動したい距離（最短）



✓ シェアサイクルで移動したい距離（最長）

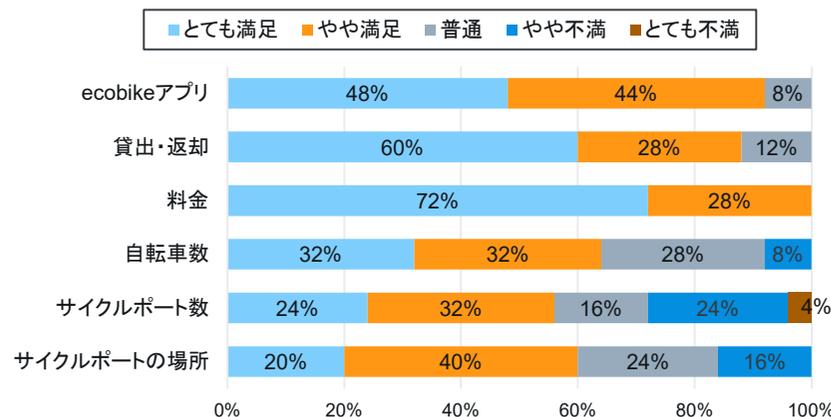


- 自転車5分程度
- 自転車10分程度
- 自転車15分程度
- 自転車30分程度
- 自転車45分程度
- 自転車1時間以上

3-4 シェアサイクルへの意見

利用者の評価では、「ecobikeアプリ」「貸出・返却」「料金」の項目については、約9割以上の人々が「とても満足」もしくは「やや満足」と評価した。
 一方、「自転車数」「サイクルポートの場所」については、「とても満足」もしくは「満足」と評価した人は約6割にとどまり、「普通」もしくは「やや不満」が約4割であった。
 また、「サイクルポート数」では、「とても満足」もしくは「満足」と評価した人は56%であり、「とても不満」と評価した人が4%であった。

✓ 利用評価

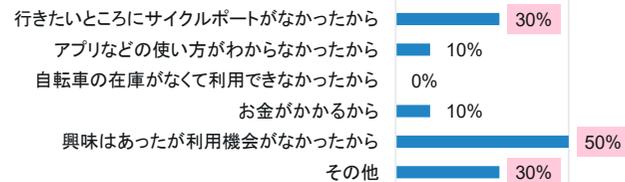


3 アンケート

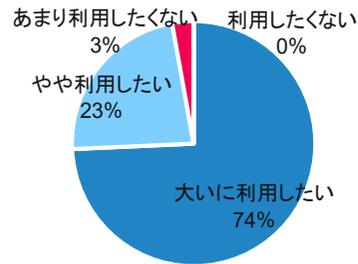
3-4 シェアサイクルへの意見

シェアサイクルを利用しなかった人では、「興味はあったが利用機会がなかったから」が50%を占めており、次いで「行きたいところにサイクルポートがなかったから」「その他」が30%であった。
 今後利用したいか、という質問には「大いに利用したい」「やや利用したい」と答えた人が97%であった。

✓ シェアサイクルを利用しなかった人限定質問 利用しなかった（できなかった）理由（複数回答可）

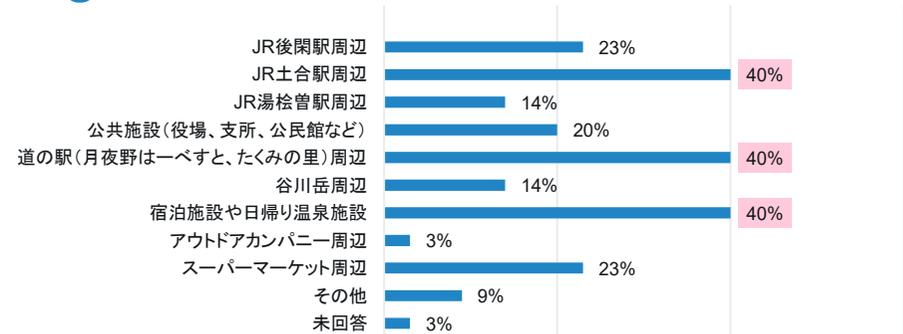


✓ 全員質問 今後シェアサイクルを利用したいか

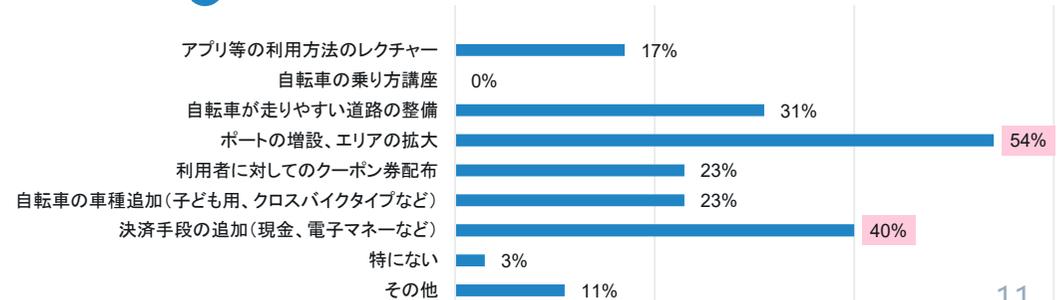


シェアサイクルを増やして欲しい場所では、「JR土合駅」「道の駅周辺」「宿泊施設や日帰り温泉施設」が40%で最も多かった。
 利用できる（利用回数が増える）支援については、「ポートの増設、エリアの拡大」が54%で最も多かった。

✓ 今後サイクルポートを増やして欲しい場所（複数回答可）



✓ どのような支援があれば利用できる（利用回数が増える）か（複数回答可）



3 アンケート

可能性を大いに感じています。冬季に利用できないのが気候的に残念ですが、それにより認知拡大の妨げになっているとも思います。

機会があれば是非利用したいです。

電動自転車を使えるというのは大変便利。ほかの観光地や温泉街にも設置していただきたいと思います。

低料金で借りられたので、気軽に長時間利用できました。車では入りにくい道にも行けるのが楽しかったです。電動アシストなので坂も気にせず移動できてよかったです。

ポート数も増えて行動範囲も増えたのはよいが、それに伴う値上げが心配です。

返却場所に余裕を持たせていただきたいです。観光利用には貸出返却が予約出来ると使いやすいと思います。

支払い方法について

- ・電子マネーのnanacoやWAONが使えれば利用したいです。
- ・シェアサイクリングのためだけにクレジットカードの情報を登録するには抵抗がありました。PayPayなどの決済手段があるともっと手軽に使えると思いました。
- ・前橋のようにSuica決済を導入して欲しいです。
- ・クレジット払いのみというのが困りました。

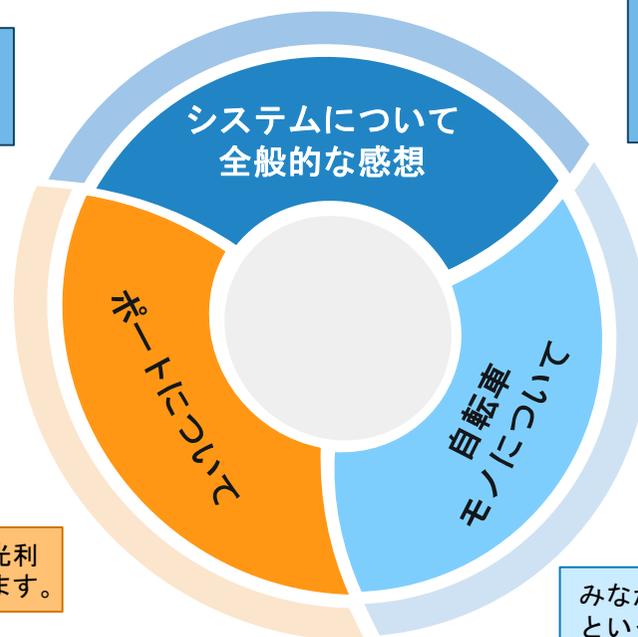
たまたま駅の案内所でパンフレットを見つけて利用させていただきました。初めて電動自転車に乗りましたが、快適でとても良かったです。

観光地で簡単に利用できるのはとても良かったです。

eバイク（クロスバイクとロードバイク）があれば利用したいです。

新しいタイプの自転車があるとオシャレに感じますので、若い観光客の利用も増えるのではないのでしょうか？

みなかみ町は山道が圧倒的に多いので、クロスバイクといった、スポーツタイプの自転車を用意していただきたいです。



4 実証実験 総括

4-1 実証実験の評価

【利用者の評価】

8ヶ月の実証実験期間であったが、利用開始から順調に会員数を伸ばし、1日あたり約9.5回の利用があった。今後の利用については97%の人が「利用したい」と回答したことから、利用者に好評のサービスであったと言える。

【公共交通の機能補完の役割】

利用回数をポート別に比較すると、「JR水上駅」を発着地とする利用が62%を占めており、駅から目的地までの移動手段として、公共交通の機能補完の役割を果たしたと考えられる。

【観光に有効な移動手段】

利用者アンケートでは、利用目的としては「観光」が84%を占めており、また平均利用時間が「58分53秒」と他自治体（31分4秒）と比べて利用時間が長いことから、交通手段が限られる観光客の足として有効な手段だと期待される。

【シェアサイクルによる地域活性化】

利用者アンケートでは、シェアサイクルの利用によって「行動範囲が広がる」「観光の幅が広がる」の回答が多く、新たな流動が生まれていると考えられる。シェアサイクルの目的である「回遊性を高める」効果が期待される。

4-2 今後の課題と方向性

【ニーズに応じたポートの拡充】

利用者アンケートの「今後どのような支援があれば利用できる（利用回数が増える）か」について、54%の人が「ポートの増設、エリアの拡大」と回答しており、道の駅周辺や宿泊施設への設置を求める声が多かった。このようなニーズに応じたポートの拡充に対する検討が必要である。

【利用実績】

コロナ禍で観光客が少ない状況であったが、平日・休日ともに安定した利用があった。今後継続した事業展開をしていくためには、さらに利用回数と利用時間を伸ばしていく必要がある。ポートによっては、自転車の回転率に差があったため、利用頻度の高いポートに自転車台数を増やすなど、さらなる検討が必要である。

【消費行動の把握】

ポート間の移動パターン別利用回数については現在のシステムで把握できるが、ポート間においてシェアサイクル利用者がどのような行動を取っているかが把握できていない。利用者の行動を把握することで効果的なポート設置や台数配備が可能となることから、GPSロガーを活用した経路分析の実施など、消費行動の把握に向けた検討が必要である。